

# 陽だまり

高岡市立高陵中学校  
第1学年だより  
第8号  
令和7年1月2日



## どうせやるなら

1学年主任 田賀 美奈

私は3歳の頃からピアノを習い始めた。自分から習いたいと言ったのだと母からは聞いている。

ピアノが大好きで、毎日毎日弾いていたことを思い出す。犬に手をかまれて、指がズキズキ痛む日さえ、ピアノの前に座り、練習をした。

私が初めてピアノを習った先生は、祖母の姉だった。祖母の姉は、昔、小学校の教員をしていましたので、音楽大学等でピアノを勉強した訳ではないが、ピアノが弾けて、何人もの生徒を教えていた。そんな環境のもと、私は専門的なことこそあまり習えなかつたが、自由にのびのびとピアノを楽しんでいた。

小学5年生になった頃、きちんとピアノ習うなら教室を変わった方がいいという話があがつた。新しい教室は、日本でトップクラスの私立音楽大学の附属教室だった。私のピアノの先生は、毎週末、東京から富山までピアノを教えに来ておられたし、音楽の様々な基礎力を伸ばすソルフェージュという授業の先生も、毎週大阪から来ておられた。レッスンはとても厳しく、泣きながらレッスン会場から生徒が出ていくのも普通の光景だったし、1時間半のレッスンで、曲の最初の4小節から全く先に進ませてもらえないこともよくある話だった。

そんな教室が私は大嫌いだった。みんな苦しんだり、傷ついたりしているようにしか見えない。そもそも私は基礎が全くできていないと言われ、教室を変わったばかりの頃は両手でピアノを弾くことさえ許されなかつた。指1本1本の使い方や手首の使い方を一から勉強し直さねばならず、小学2、3年生が、すらすらとショパンを弾く中、私は幼稚園の頃に弾いていた曲を片手ずつ練習しなければならなくて、本当に惨めだった。

前向きに練習をする気持ちには全くなれなかつた。あまりに練習不足で、ズル休みをしたことも何度かあつた。そんな状態だったので、発表会やテストなどの演奏もミスが多くつた。しかし、当時私を教えてくださつた先生は、私を決して見捨てず、妥協されることもなかつた。できていないところを一つ一つ指摘され、できるようになるまで根気強くレッスンをされた。

大学では、音楽について研究する音楽学を専攻したが、ピアノの授業もあった。大学に進学する際、ピアノ教室も卒業し、ピアノの先生も変わつた訳だが、離れてみて、やつと私は厳しかつた音楽教室での練習の意味を考えられるようになった。基礎がきちんと身に付いていれば、どんな曲もある程度高いレベルから練習を開始することができる。ピアノ科ではなかつたが、他の楽器の人の伴奏をさせてもらつたり、声楽科の人達が集まる合唱の授業の伴奏をさせてもらつたりもした。大学を卒業してからも、幼稚園や小学校、地域の行事等で演奏する機会をたくさんいただいた。

そんな日々を送りながら、私は考えていた。あの厳しい音楽教室にいた頃、どうしてもっと前向きに練習をしなかつたのだろう。嫌々教室に通うのではなく、積極的に練習できていたなら、もっとたくさんのこと学べていて、今よりもうまく演奏できていたに違ひない。音楽とも深く関わる力が身に付いていただろう。

中学校生活は皆さんにとって楽しいことばかりではないだろう。苦手な教科もあるだろうし、自分が想像していたよりも高いレベルでやり遂げることを求められるときだつてある。特に3年生は、今、受験に向けて大変な毎日を送っているだろう。そんな中で、どうせやらなくてはならないこと、今頑張らなければならない状況に直面していることがあるのであれば、嫌々やるよりも前向きな気持ちでやつた方が楽しいし、得られることが多いはずだ。困難にぶつかつても、前向きに取り組むことができたなら、その経験は将来、きっと皆さんを助けてくれるに違ひない。

## 3年間の「ものづくりデザイン科」を 終えて

- 鑑賞すると、みんな、制作したパッケージに何らかのこだわりをもっていて面白かったです。
- この3年間の授業を生かして、高岡の魅力をもっともっと知りたいと思いました。
- ものづくりデザイン科の授業を通し、高岡の伝統工芸のよさを感じ取ることができました。
- 伝統工芸品等の制作では、一つ一つの作業を丁寧に行なうことが大事だと実感しました。

## 民謡鑑賞会の感想より



- 普段、三味線の演奏を生で聴くことがなかつたのでとても貴重な機会でした。演奏の仕方で曲調が変わるのが奥深いなと思いました。
- すごくなめらかな踊りや伸びやかな唄から昔からの人々の想いが伝わってきて、民謡って本当にすごいんだなと思いました。
- 鑑賞会から戻った後、みんなから「さらを使うのは意外に難しいんだよ。」「やってみたかった。」といった声が出ていて、クラスが盛り上がっていました

## 全校人権弁論大会の発表を聞いて

- これから自分のについて考え直すことができました。人それぞれの観点があり、「そういう見方もあるのだな。」と気付かされることがたくさんありました。
- 一人一人が思っている「人権のかたち」が全く異なっていて、「人権」という言葉に様々な意味があることを実感しました。
- 様々な視点からの発表を聞いて、普段の自分の言動を幅広く振り返ることができました。
- 今回の人権弁論大会を通して、「一人一人を人として見る」ことが大事だと改めて分かりました。
- 人権は侵害されなければならない権利であることを忘れずに、皆楽しく生きられるようにこれからも意識して過ごしたいです。
- 発表者の方々が自分の体験と言いつつも、みんなにメッセージとして問いかけているところが心に残りました。

## 12月予定



1	月	短縮授業(～19日) 漢字コンテスト朝学習スタート
2	火	
3	水	
4	木	薬物乱用防止教室
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	漢字コンテストプレテスト
9	火	
10	水	漢字コンテスト 1年色覚検査
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	モップ交換日

17	水	
18	木	書初練習(5、6限)
19	金	給食最終日、愛校の日
20	土	
21	日	
22	月	保護者会 生徒は9:30下校
23	火	保護者会 生徒は9:30下校
24	水	授賞集会、終業式
25	木	冬季休業(～1/7)
26	金	
27	土	閉学日(～1/2)
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

